

観峰館の臨書作品（3）

—孫過庭《書譜》の言葉と形—

【観峰館オンライン講座】第10回

はじめに

講座の流れ

はじめに

伊立勲（1856～1942）の臨書作品について

孫過庭《書譜》との比較

伝えられる《書譜》の形

おわりに



伊立勲（1856～1942）の
臨書作品について

醉言古驛樹青琴殊海共艷隨珠和璧
弄美同妍何必刻鵠圖就忘熱食猶得
魚獲兔矜恃望誦

蕊初仁兄大雅屬詩書譜
戊午夏仲伊立勳時於申江

伊立勳《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）
146.0×36.7cm 觀峰館藏

醉言古驛樹青琴殊海共艷隨珠和璧
弄美同妍何必刻鵠圖就忘熱食猶得
魚獲兔矜恃望玉誦

蕊初仁兄大雅屬論書譜
戊午夏仲伊立勳時客申江

蕊初仁兄大雅屬論書譜
戊午夏仲伊立勳時客申江

蕊初仁兄大雅屬

臨書譜

戊午夏仲 伊立勳時客申江

伊立勳《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）
146.0×36.7cm 觀峰館藏

※最終的には手本として学んだ書と似ていなくても良い、ということを述べるための例えの数々。

たとえば、絳樹・青琴といった美女は、姿は異なっても共に美しく、随珠・和璧といった珍しい宝は、質は異なってもいずれも美しい。鶴を刻したり龍を描くとき、出来上がった作品が実物と異なると言つて、何も恥じることはない。また、魚・兔を獲つてしまえば、筌と蹄は不要である。

伊立勲《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）
146.0×36.7cm 観峰館蔵

譬夫絳樹青琴。殊姿共豔。隋珠和璧。異質同妍。何必刻鶴圖龍。竟慚真體。得魚獲兔。猶愴筌蹄。

慈初仁兄大雅屬詩書譜
戊午夏仲伊立勲時於申江

譬夫絳樹青琴。殊姿共豔。隋珠和璧。異質同妍。何必刻鶴圖龍。竟慚真體。得魚獲兔。猶愴筌蹄。

たとえれば、夫の絳樹・青琴は、姿を殊にすれども共に艶しく、随珠・和璧は、質を異にして同じく研なるがごとし。何ぞ必ずしも、鶴を刻し龍を図して、竟に真体に慚じ、魚を得て兔を獲て猶お筌蹄を愴まんや。

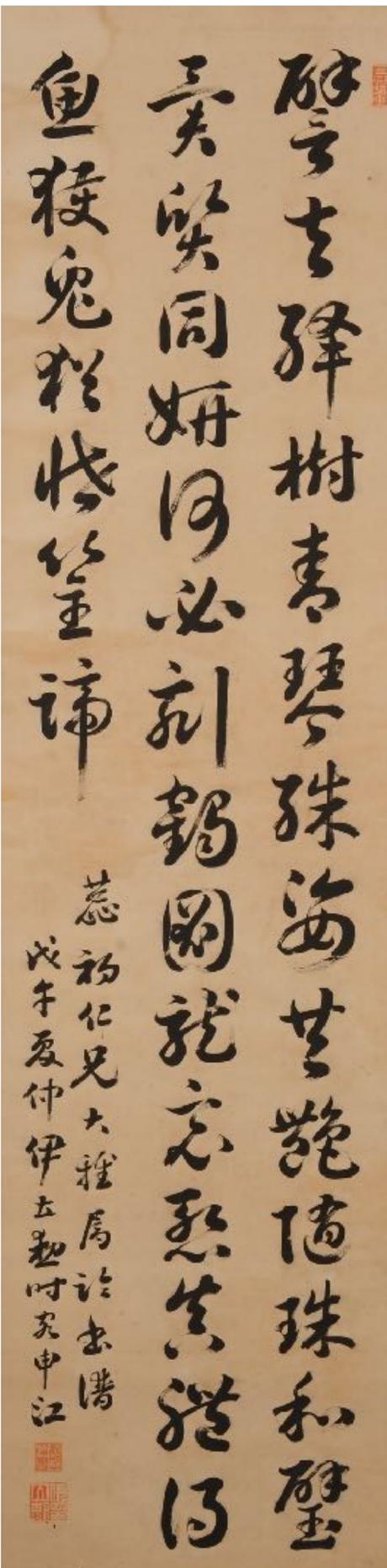
孫過庭《書譜》との比較

原本

・文字の配置や形にズレが多い。

草書：速書きのために生まれた書体。

草書体らしい躍動感のある形。



臨書：

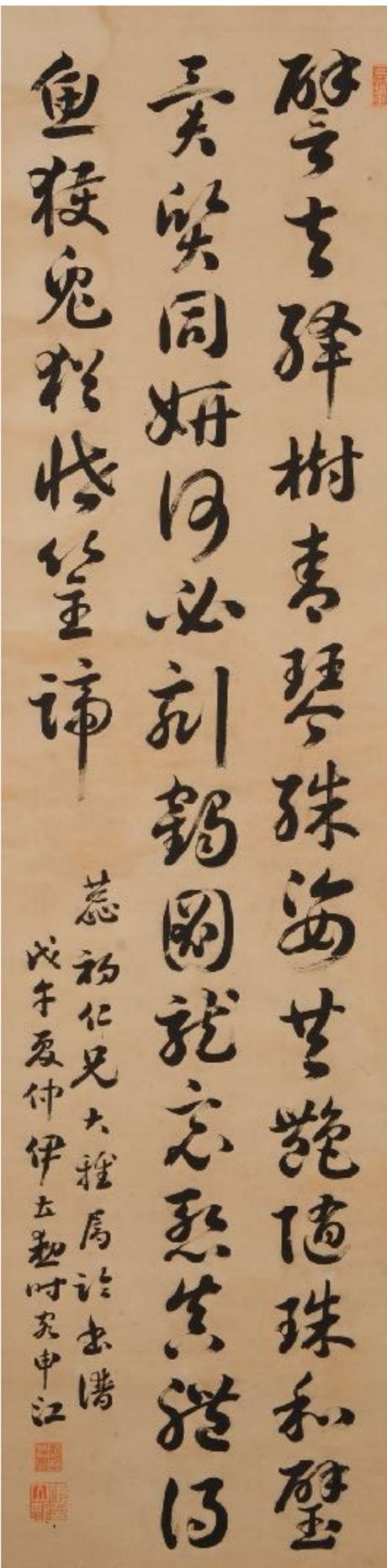
・文字の配置や形にズレが少ない。

速書きの書体である草書体でありながら楷書体のような安定感を持つ形。

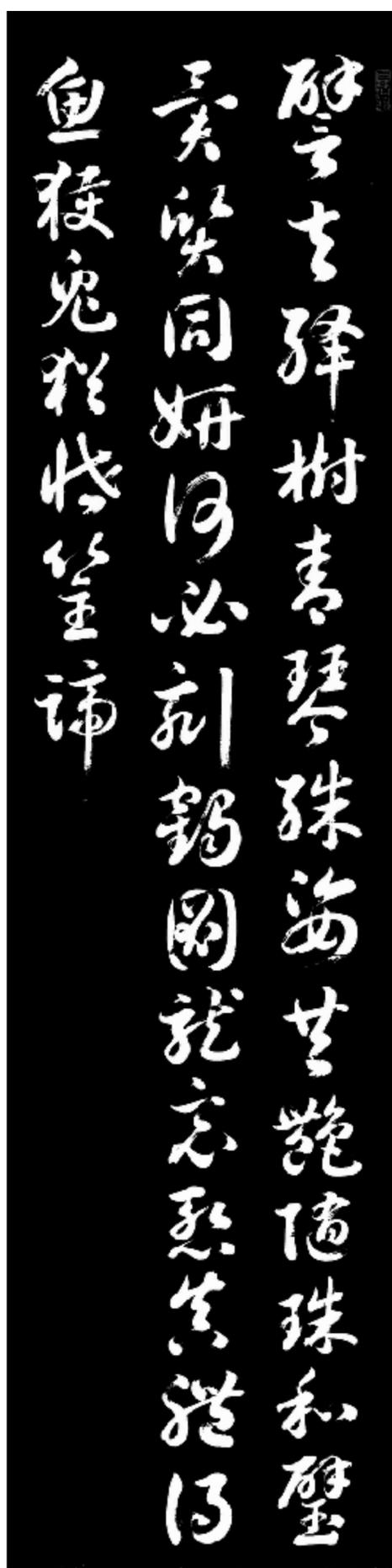
伊立勳《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）

146.0×36.7cm 觀峰館藏

《書譜》の臨書だが、
形はあまり似ていない。
→もしかして、こんな字の形を
した《書譜》があった！？



伊立勲《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）
146.0×36.7cm 觀峰館蔵

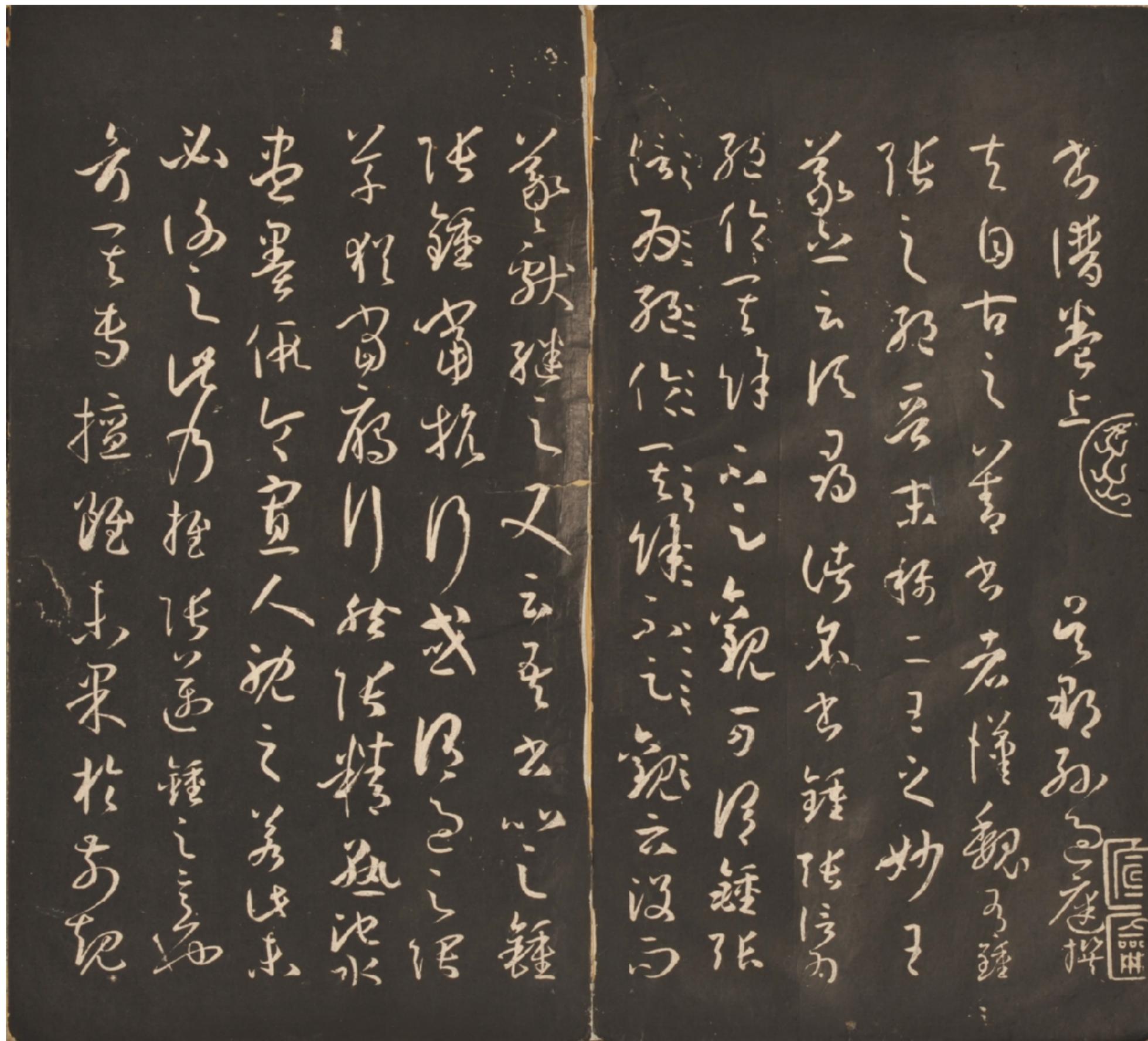


伊立勲の作品を
白黒反転

伝えられる 《書譜》 の形

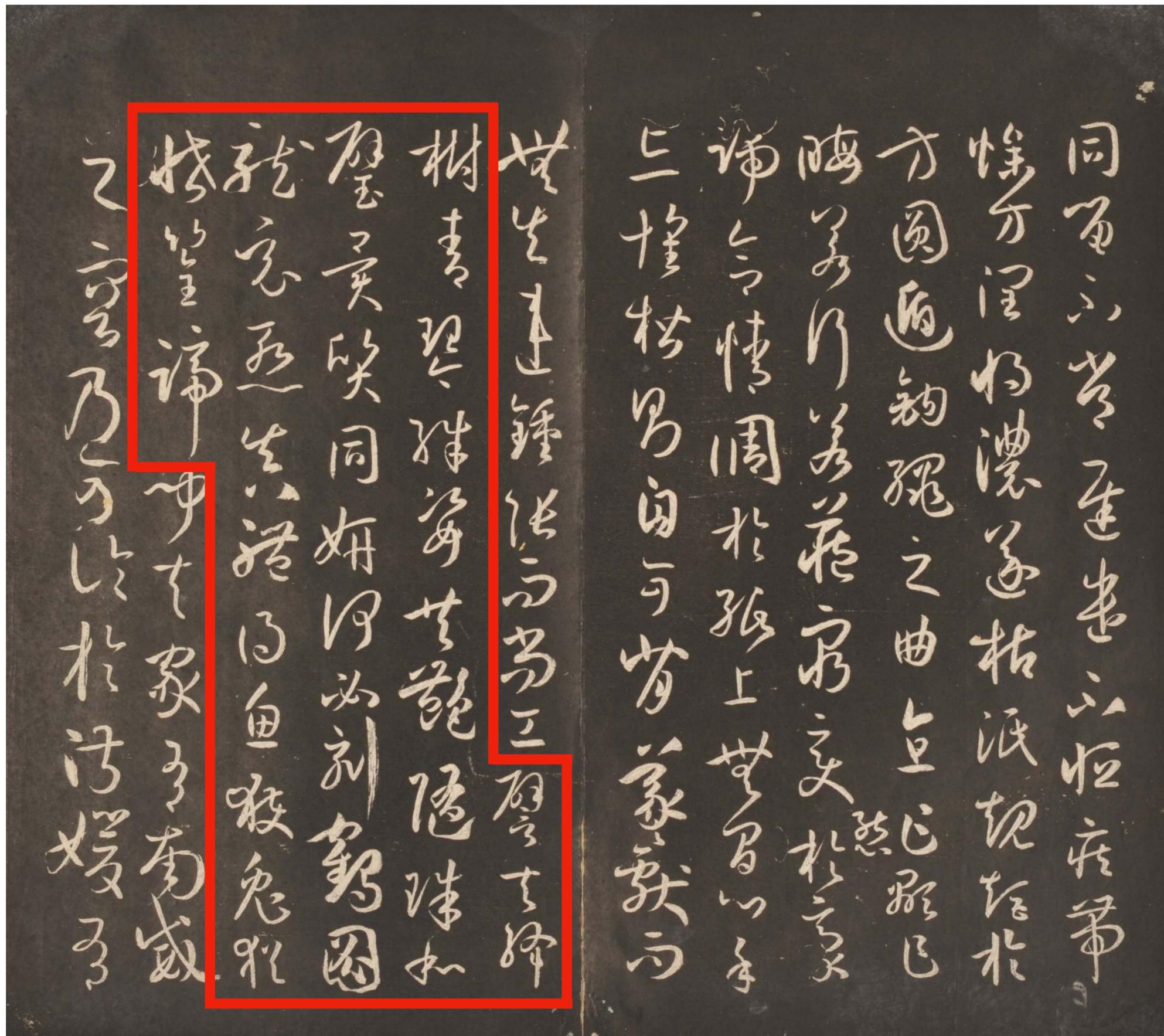
原本は1点しかないため、複製が作られる
=代表的なものが「拓本」

※この拓本は観峰館HPで無料ダウンロードできます。



孫過庭《書譜》
(安麓村本)
紙本墨拓
清時代後期
32.0×17.6cm
観峰館蔵

伊立勲が臨書した部分



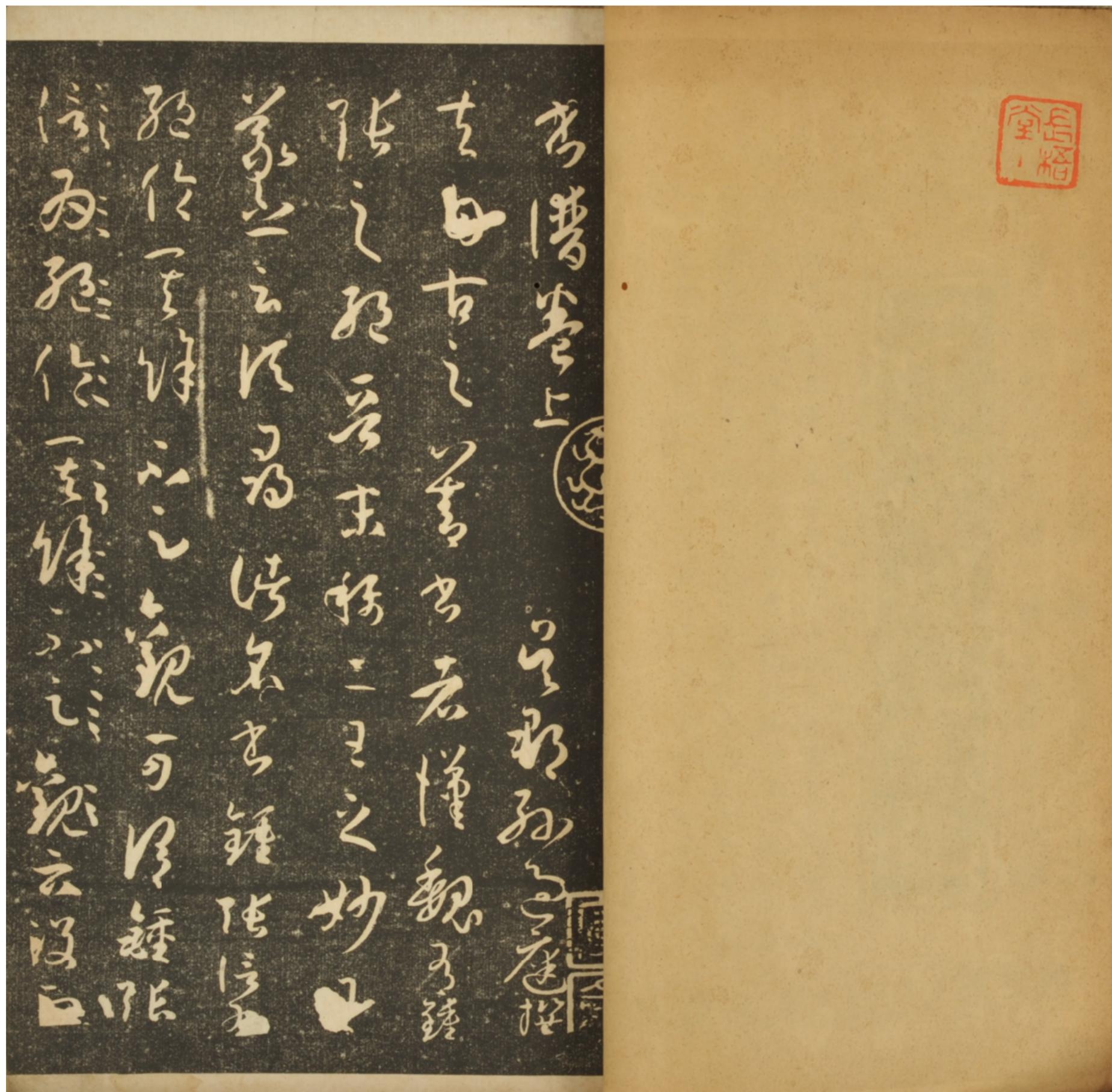
孫過庭《書譜》
(安麓村本)
紙本墨拓
清時代後期
32.0×17.6cm
觀峰館蔵

拓本では、原本ほど筆の打ち込み角度がはっきりしない。

拓本を見て臨書する場合は、原本の姿をかなり積極的に想像しながら臨書していたと思われる。

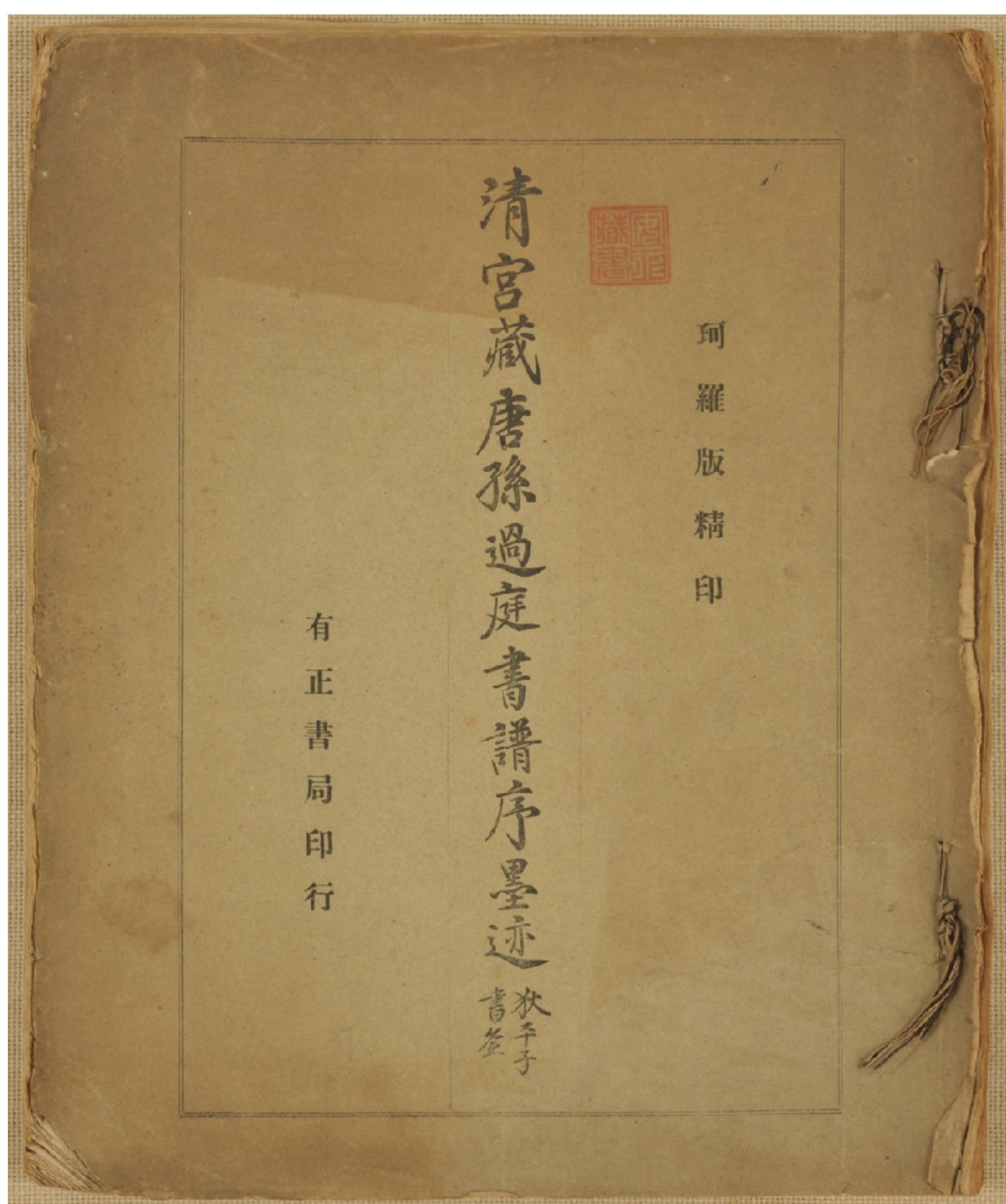


印刷の手本も
既に存在する。



『初拓 書譜』
26.1×15.6×0.7cm
上海有正書局
中華民國4年（1915）
觀峰館藏

写真印刷の手本も既に存在する。



『清宮藏 唐孫過庭書譜序墨跡』

35.5×29.5×1.0cm

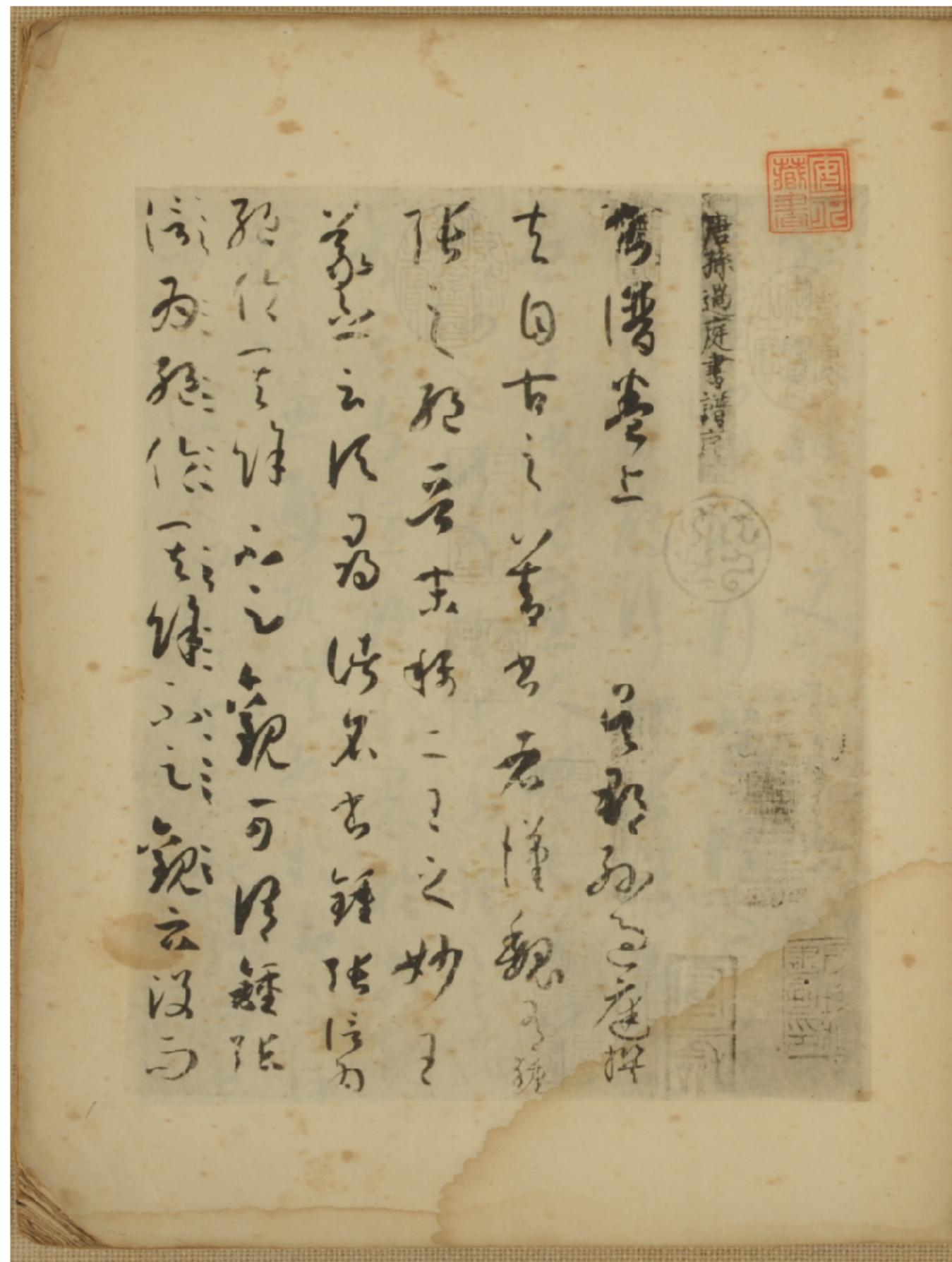
有正書局

中華民国時代

觀峰館藏

写真印刷の手本も既に存在する。

原本《書譜》の写真印刷も中華民国期に出版されている。



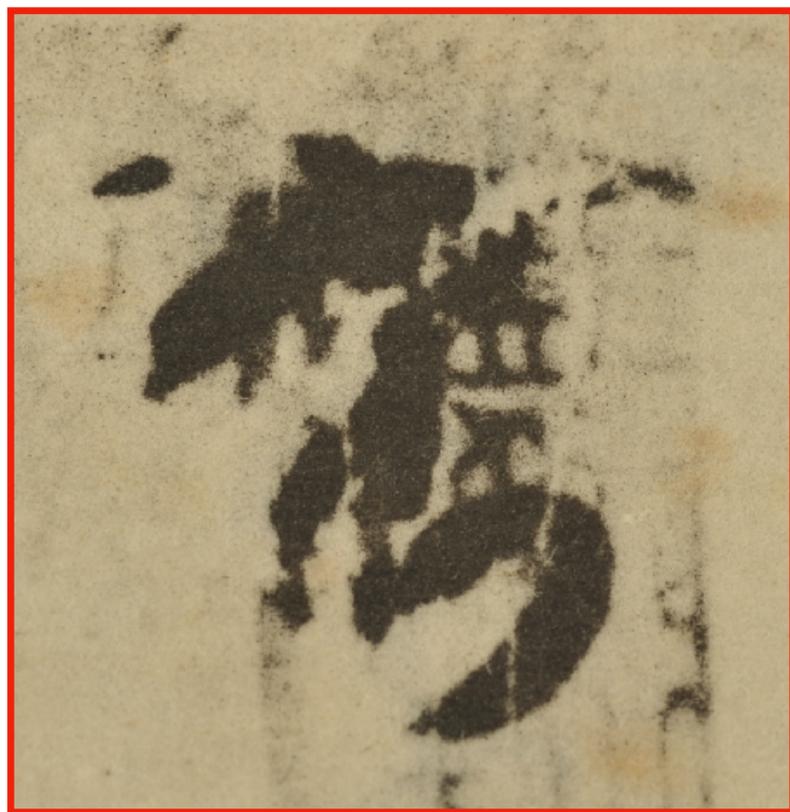
『清宮藏 唐孫過庭書譜序墨跡』

35.5×29.5×1.0cm

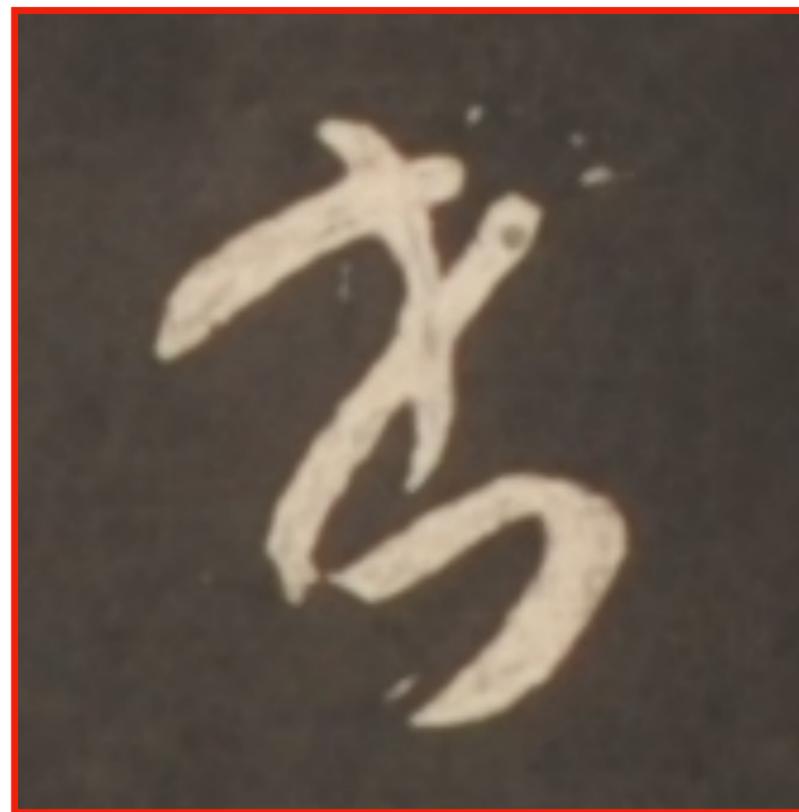
有正書局

中華民国時代

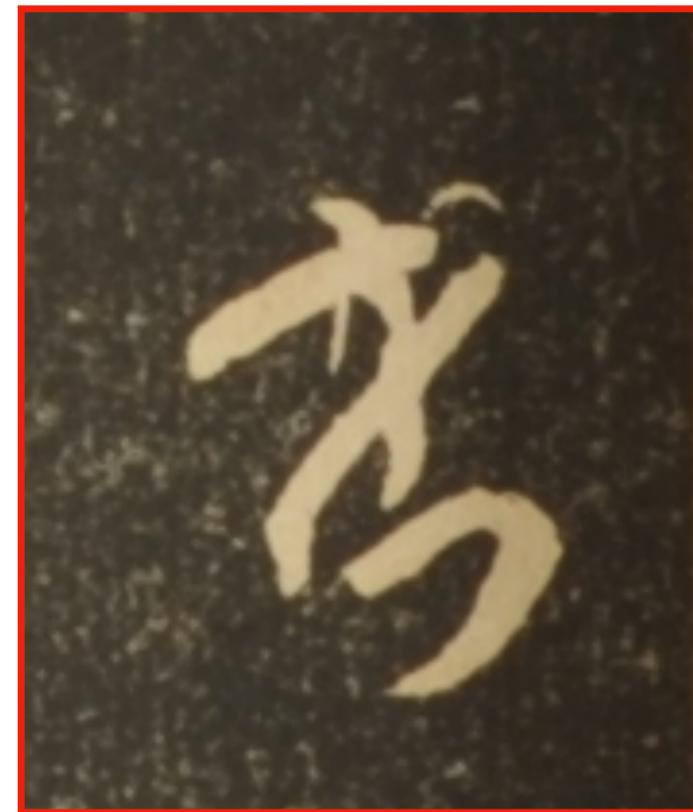
觀峰館藏



原本
(肉筆)



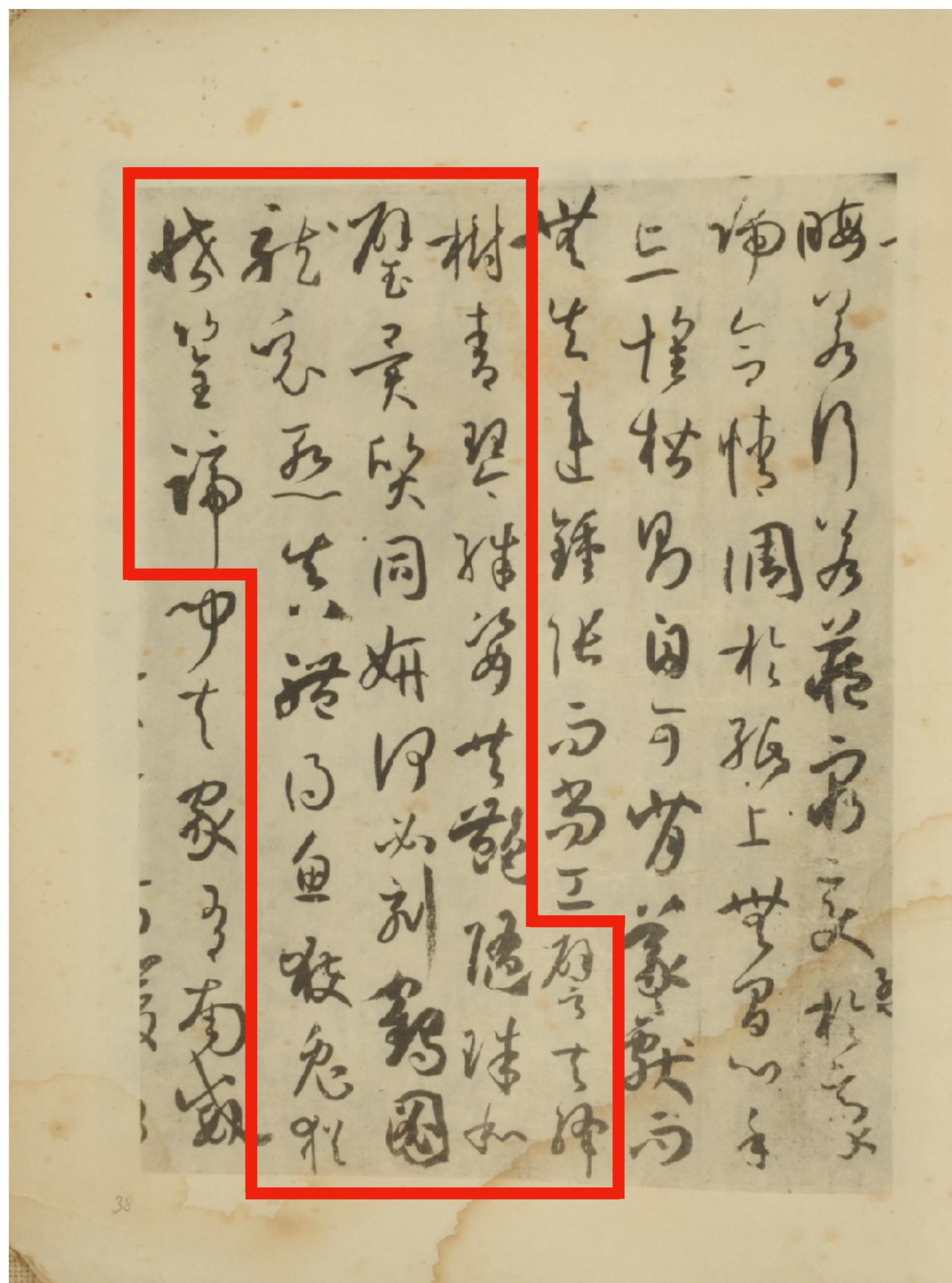
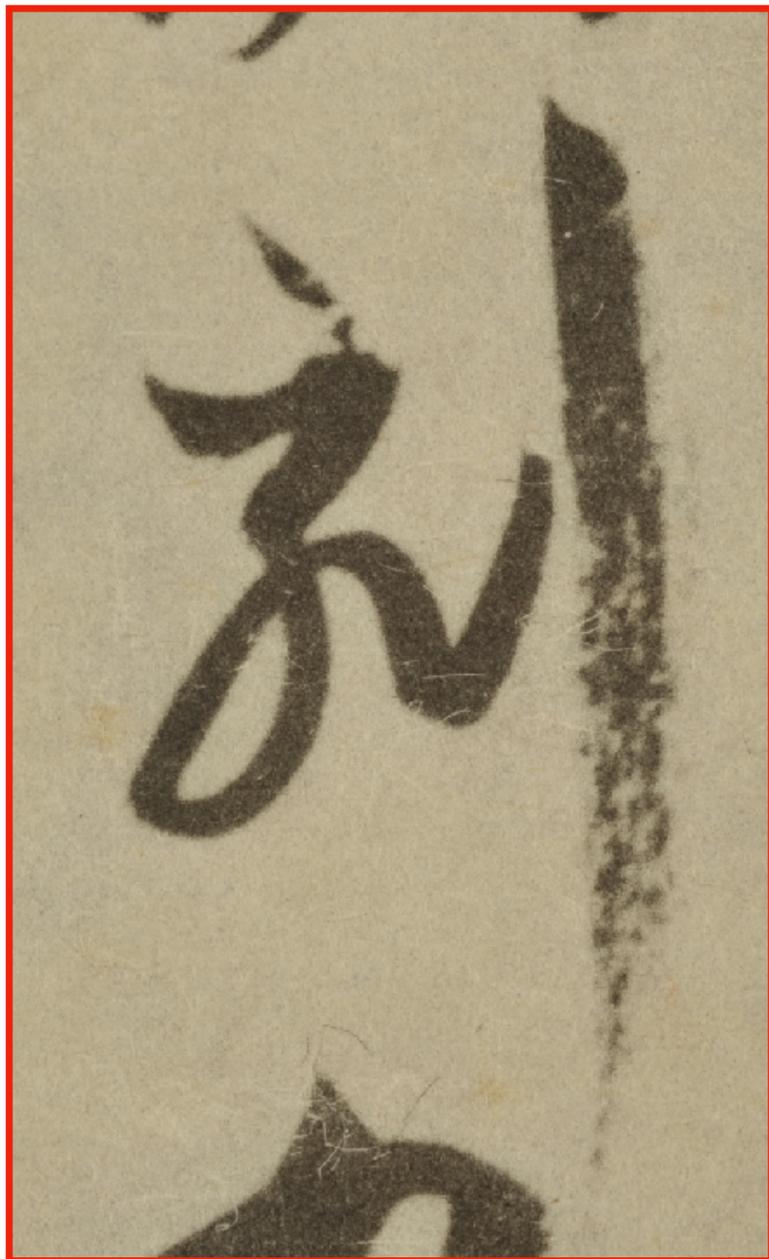
安麓村本
(拓本)



上海有正書局
(印刷)

色々な姿の《書譜》が存在していた。

「写真」とはいえ当時の印刷技術では、はっきりしない部分もある。



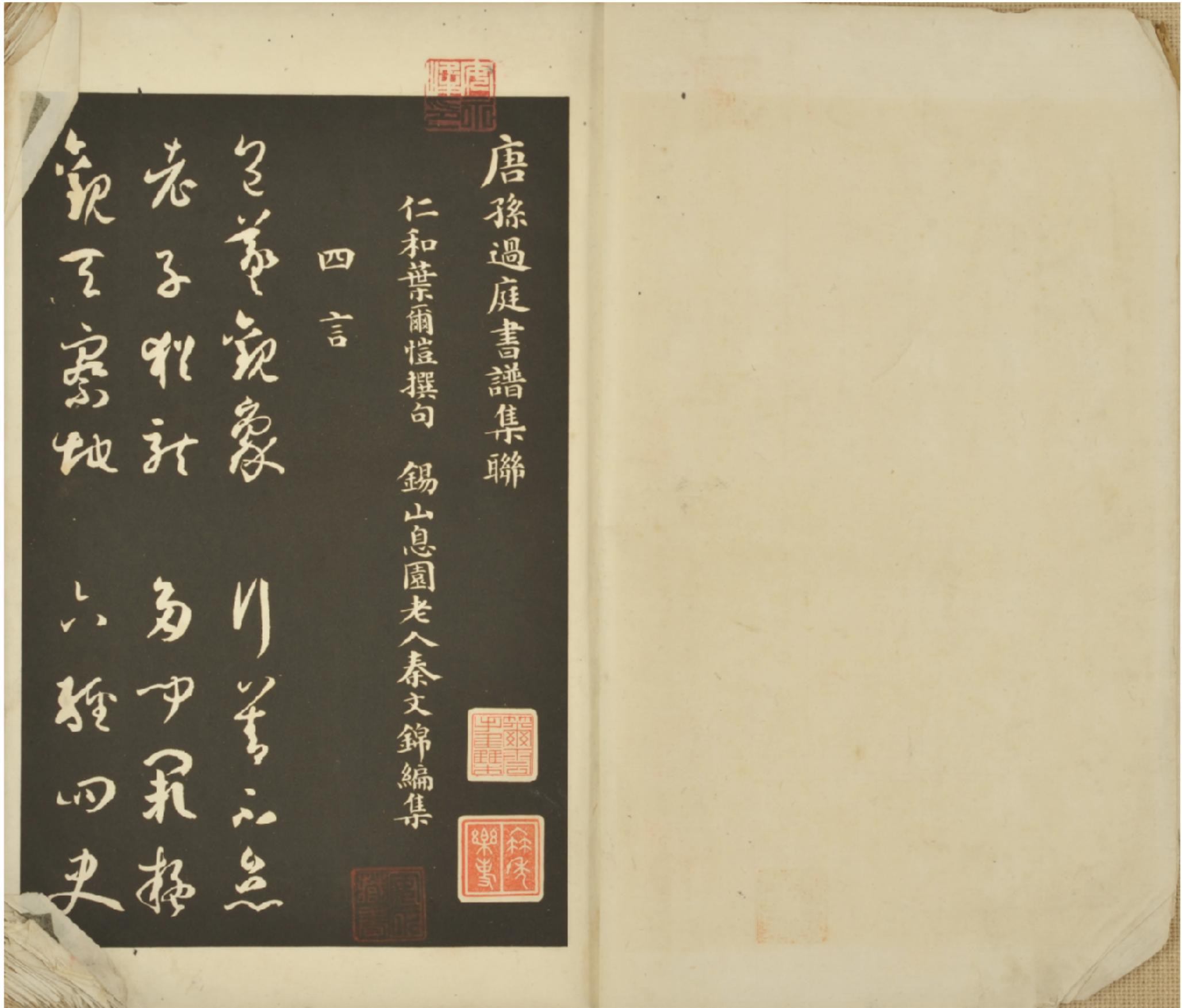
『清宮藏 唐孫過庭書譜序墨跡』

35.5×29.5×1.0cm

有正書局

中華民國時代

觀峰館藏



唐孫過庭書譜集聯

仁和葉爾愷撰句 錫山息園老人秦文錦編集

四言

夕華觀象 行草不忌
老子刑新 多中亂極
觀天察地 六經四史

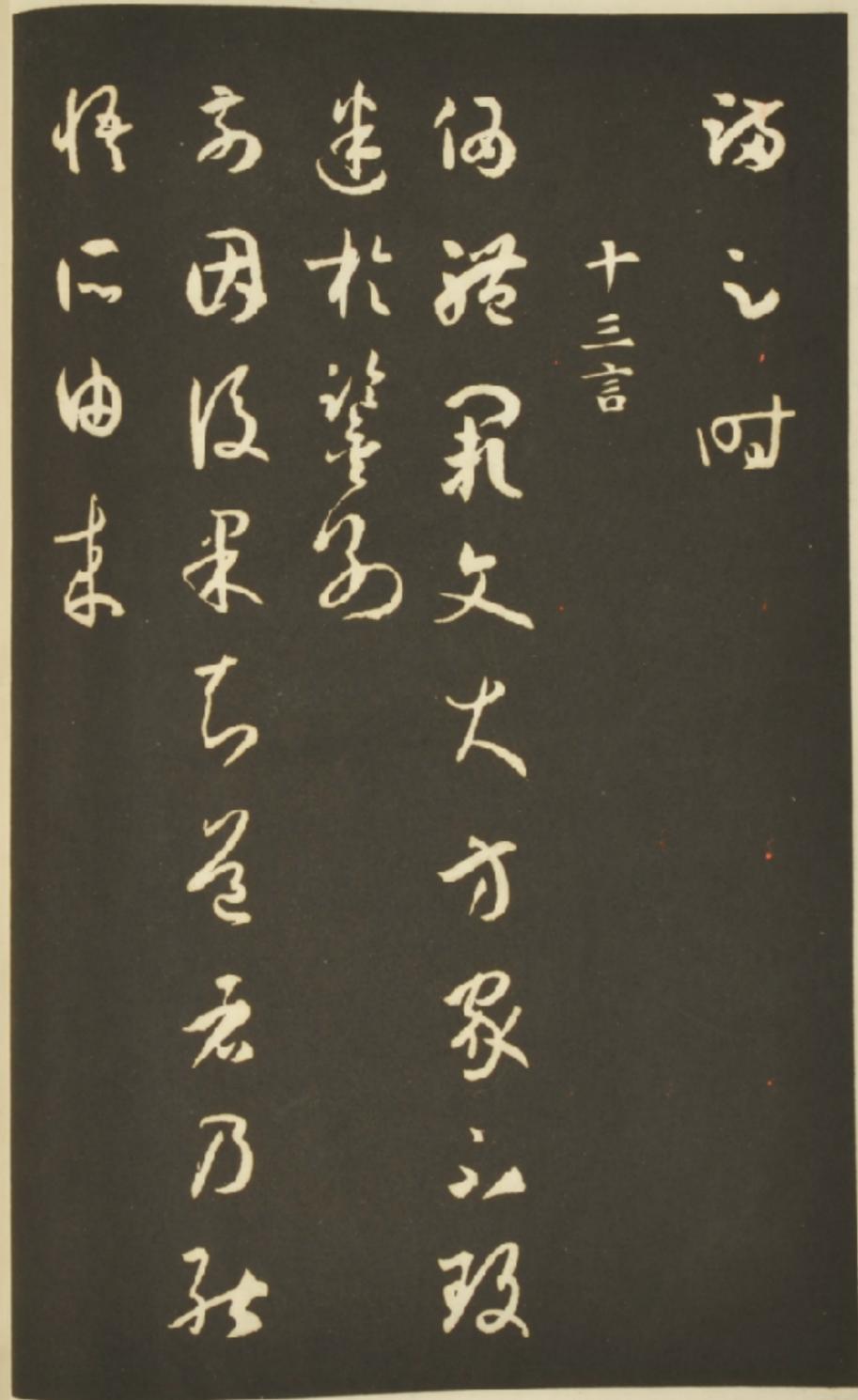


《書譜》に書かれた「言葉」ではなく、「形」が重視されている例。

語句に合わせて《書譜》から集字した手本集。

『唐孫過庭書譜集聯』
33.1×22.0×0.8cm
上海芸苑真賞社
中華民国（1915年以後）
觀峰館蔵

『唐孫過庭書譜集聯』
 33.1×22.0×0.8cm
 上海芸苑真賞社
 中華民國（1915年以後）
 觀峰館藏



唐孫過庭書譜集聯

四言

包羲觀象	行善不怠	觀天察地	六經四史	三人成衆	地中有水
老子猶龍	多聞闕疑	體物長人	諸子百家	一大為天	山下出泉
曰若稽古	地分八極	宗門龍象	小人下達	尋四時樂	未可與立
其在於今	天有四時	小道蟲魚	君子中庸	耽一味閒	夫然後行
何必曰利	古今圖籍				
莫如為仁	天下文章				

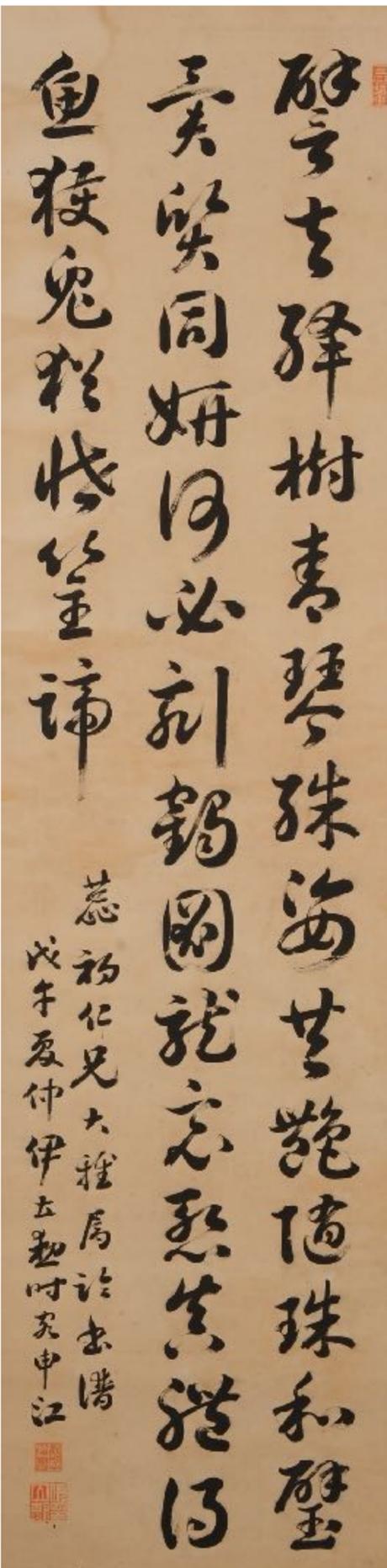
五言

鸞和音中節	風月清無價	陳留古形勝	南方草木狀	向陽移畫机
鶴立勢超羣	雲山興不孤	越絕舊山河	止風雲漢圖	賞月生琴臺
壯士懷周處	長天鴈布陣	遷固文章伯	岸高林木直	伏勝藏書壁
詞人數謝莊	曲沼魚遁鈞	雷陳道義交	雪重樹枝偏	生公說法臺
官吏稽除目	字迹摹蟲篆	貌古俗情澹	學因剛勇進	元公標無極
聖賢指道心	筆工製兎豪	神清道氣濃	道以神理超	陽明悟良知
愈疾傳靈素	舊新五代史	雲興月掩面	泉聲清石骨	針神擅奇術

《書譜》に書かれた「言葉」ではなく、「形」が重視されている例。

語句に合わせて《書譜》から集字した手本集。

様々な技術で複製された
《書譜》の「形」が存在
する状況において書かれ
た伊立勲独自の「臨書」
作品。



ここまで独自の「形」だ
と、「本当に手本を見て
書いたのか？」という疑
問も生じる。
→手本を見ずに臨書する
「背臨」であった可能性
もある。

伊立勲《草書臨孫過庭書譜軸》
紙本墨書 中華民國7年（1918）
146.0×36.7cm 觀峰館藏